

12. ワールドカフェによる多職種間コミュニケーションを入職時研修に取り入れて

加古川西市民病院 看護部 岡野 由美子 馬場 明美
医療監 石川 雄一

【要旨】

臨床では、NST や ICT、退院支援など多職種からなるチームで医療提供する場面が増えている。チーム医療が効果を十分に発揮するためには、丁寧な多職種間コミュニケーションが不可欠である。いくつかの大学では、学生の内から学部を超えて、多職種間協働を学ぶ機会が設けられている。しかし、すべての教育機関で行われているものではない。チーム医療の要となる多職種間コミュニケーションを成熟させるためには、入職時から多職種間コミュニケーションを学ぶ機会を設ける必要がある。

【目的】

新入職員が多職種間コミュニケーションを体験し学びを得ることを目的に、入職時研修にワールドカフェを取り入れた。

【方法】

1. 対象者

対象者は、平成 26 年度の新入職員 39 名（臨床研修医 4 名、看護師 27 名、助産師 4 名、栄養管理士 1 名、理学療法士 3 名）である。

2. データ採取方法

入職 2 日目の研修にワールドカフェを取り入れた。研修終了後に提出される報告書より、ワールドカフェについて書かれたセンテンスを抜き出し、個人が特定されないようにデータ処理を行い、ワールドカフェを通しての気づきや学びを抽出した。

(1)ワールドカフェの説明

会議室で行われる機械的な会議よりも、「カフェ」のような、オープンで自由な会話を通してこそ生き生きとした意見の交換や、新たな発想の誕生が期待できるという考えに基づいた話し合いの手法である。自分が最初に話したテーブルでのアイデアが、ラウンド毎にテーブルが変わることでミツバチの「他花受粉」のように、他のテーブルへと拡がり、交わり、新たな発想が生み出されるものである。

(2)研修でのワールドカフェのテーマ

入職時研修では、テーマを「私達の理想の病院をつくらう」と設定し、ラウンド 1: どんな病院にしたい、ラウンド 2: 理想の病院にするには何を大切にすればよいか、ラウンド 3: 私達にできることってなんだろう、ラウンド 4: 全体セッションとし、ワークを行った。4~5 人からなる 8 つのグループを形成し、ラウンド毎にホスト以外が入れ替わりながら話し合いを進め、全体セッションとして理想の病院像を作り上げた。

【結果】

1. ワールドカフェの成果

理想の病院像として、「人間関係が良好な病院」、「職種を超えてチームワークのよい病院」、「患者が安心して過ごせる病院」、「新しい視点をもつ/今は無理でも新しい視点を言えることを認める病院」、「医療者にとって働きやすい病院/患者にとってかかりたくなるような病院」、「距離が近い病院: 患者の変化に気づける/スタッフ同士意見が言い合える」、「明るく患者が質問しやすく、にぎやかな病院」、「先輩後輩が仲良く、働きやすい病院/患者に寄り添える病院」などがあげられた。



図 1. ワールドカフェの様子

2. 研修終了後のレポートからの学び・気づきの抽出

研修終了後のレポートからは、「医療の提供にはチームが必要」、「多職種間のコミュニケーションをよくと

る、「信頼関係」などが大切だと感じていた。また多職種間コミュニケーションを必要と感じた理由として、「意見を出し合うことで自分が考えることができなかつた知識を知ることができる」、「様々な意見やアイデアが提案される」など「視野が広がる」事を感じたり、「意見交換や認識のすり合わせを行っていく」、「知識共有」といった協働する上で必要なことをあげていた。さらに「お互いを知る」、「寛容に相手の意見を聞く」、「相手の意見を否定せず受け入れる」、「相手の思い・気持ちの尊重」、「相手の話が終わってから自分の話をする」など、コミュニケーション手法を学び実践しようとしていた。その他に、「職種によって視点が異なるので考え方も少し異なり、意見を共有することはとても大切」、「同じ医療に関わる者でも、視点が全く違うという認識」、「話し合わなければ気づかないことがある」など、多職種間コミュニケーションを体験したからこそ気づいた事も見られていた。

【考察】

新入職員研修に「私達の理想の病院をつくろう」をテーマにワールドカフェを行うことで、実際の患者・家族に関わるチーム医療に参画する前に、模擬的に多職種による協働を経験することができ、さらにその経験から多職種間コミュニケーションの必要性とその意義、具体的方法までを学んでいた。日本保健医療福祉連携教育学会が多職種連携コンピテンシー(日本語版)案にあげている、職種間コミュニケーションに示されている「職種がことなることに配慮し、専門的知識や意見を互いにやり取りすることができる」¹⁾という能力を学ぶには、入職時など職種間の垣根が低い時期に、今回の様なワークを共に行うことが、学びやすさにつながると考える。

【まとめ】

よりよい医療を提供するために、チーム医療の要となる多職種間コミュニケーションの成熟をめざす必要がある。入職時にワールドカフェなどを通して、他職種と共にワークを行うことは、新入職員が模擬的に多職種協働を経験し、実践的に多職種間コミュニケーションを学ぶ機会になると言える。

【文献】

1) 大塚真理子,酒井郁子,相馬仁,他: JAIPE IPE 推進委員会の活動と展望,日本保健医療福祉連携教育学会第7回学術集記録.8(1):27-29, 2015.

2) アニータ・ブラウン&デイビッド・アイザックス

著,香取一昭,川口大輔訳:ワールドカフェ カフェ的会話が未来を創る.第1版,株式会社ヒューマンバリエーション,2007.

3) 田村由美:新しいチーム医療看護とインタープロフェッショナル・ワーク入門.第1版,看護の科学社,2012.